

鳥羽小学校舎の 歴史と文化財的価値を紹介します



昭和7年当時の鳥羽小学校

鳥羽小学校舎は、昭和4年に建てられた県下で最古のコンクリート建築物です。

5月25日には、構造学の専門家である関西大学の西澤英和准教授をお招きして、「鳥羽小学校現校舎を考える」と題した講演会を開催しました。

ここでは、先生の講演会での内容を踏まえ、新小学校への移転を前に、この校舎がどういう建物なのかについて紹介します。

教育委員会生涯学習課 ☎ 1268

鳥羽小学校舎について 知っていただきたい



市文化財専門員
豊田 祥三

「あんなボロボロの建物、はよ壊したらええやん」
鳥羽小学校舎について、市民のかたから、このような意見を伺うことがあります。確かに建物は古く、雨漏り

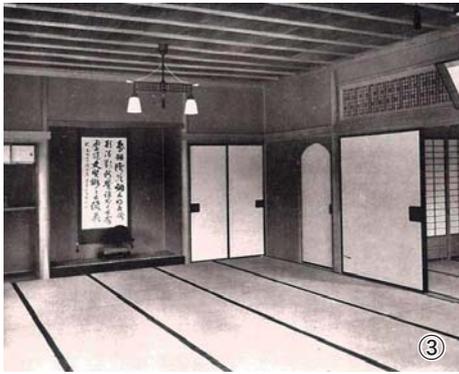
Q 鳥羽小学校舎は、 どんな建物なの？

鳥羽小学校舎は、昭和4年現在の城山に建てられました。設計者は、清水栄二氏という日本でコンクリート構造の建物を普及させていく原動力になった一流の建築家でした。校舎の建築にあたっては、当時のお金で総工費25万円（単純に比較はできませんが、現在の約10億円に相当します）かかったとされています。膨大な経費ゆえ、反対の声もありましたが、御木本幸吉の仲裁と、当時の町長の英断に

はするし、壁も一部はがれてきているし、築造から80年ほどが経過した危ない建物というイメージがあります。しかし、鳥羽小学校舎は、多大な建設費を町民からの寄付と借金でまかない、当時一流の建築家と技術者に依頼して建てられた、鳥羽の誇るべき建物なのです。

この、先人たちの思いと、建物をもつ80年間のドラマを、今、わたしたちはどのように受け止めるべきなのでしょう。この建物について、みなさんに考えていただく機会になればと思います。

より、建設が決まりました。建築費用は、町費（今の市費）13万1,000円、町債（借金）約6万7,000円と寄付で賄われました。寄付については、御木本幸吉から2万円、旧広野家住宅で知られる広野藤右衛門から1万円のほか、町内からも多額の寄付が集められたことが分かっています。鳥羽小学校舎は、まさしく当時の「鳥羽の威信」をかけて造った建物なのです。完成後には、近郊のみならず他県からも、見学者が後を絶たなかったそうです。



- ①校舎内部には、アーチ状の梁や円柱状の柱が取り入れられています。
- ②講堂の天井のデザインにもヨーロッパの様式が取り入れられています。
- ③作法教室。女子教育として、お茶教室や家庭科が行われていました。

鳥羽小学校舎の素晴らしさの一つは、そのデザインにあります。

アーチ窓や梁、円柱状の柱、張り出したバルコニー、講堂天井のデザインなど、あらゆるところにヨーロッパの様式が取り入れられています。

二つ目に、学校施設にとどまらない構造であることが挙げられます。中でも、作法教室という和室があり、女子教育として家庭科やお茶の教室を行っていました。また、鳥羽町民の公会堂としても使われたので、入り口が二つあります。さらに、いざというときに、皇族のかたをお迎えできるようにも造られています。

三つ目に、大正から昭和初期にかけて、県下で建てられた鉄筋コンクリート建築物の

Q 文化財的な価値はあるの？

中で、唯一現存する建物、だということが挙げられます。

この時期に建てられたコンクリート建築物としては、鳥羽小学校舎のほかに、津警察署、百五ビルディング、山田赤十字病院などがありました。現在は消滅し、残っているのは鳥羽小学校舎だけなのです。

Q 古いし、危ないだけじゃないの？

わたしたちは、古い建物は老朽化して危ないと思いがちですが、それは大きな誤解です。

大正12年に関東大震災が起こり、大きな被害に遭った教訓から、昭和初期の鉄筋コンクリート建築物は、今の建築物より3〜4倍も厳しい基準で建てられています。それは、同時期の建物が、昭和20年に長崎や広島に投下された原子爆弾にも耐えて残っていることでも証明されています。

また、あまり報道されていませんが、阪神大震災においても昭和初期の鉄筋コンクリート建築物の中には壊れずに残って、災害対策本部や避難所になっているものもあります。神戸にある清水栄二氏の設計した御影公会堂も、壊

れずに残り、避難所として使われました。

鳥羽小学校舎は、平成元年にコンクリートの劣化度を調べる耐力度調査を行いました。その結果、耐力度基準点5000点に少し満たない4880点(※)でしたが、コンクリート中の塩素の含有量をみたところ、劣化は一切認められませんでした。

これは、コンクリートを練るときに、ミネラルウオーターを使用したというくらいにきれいな水で練られているということが指摘されています。当時の建物が、今の建物以上に丁寧で作られていたことの証明といえます。

※文部科学省の学校改築の際に補助を得るために必要な調査で、調査項目の中で古い校舎は点数が低くなるようになっていきます。

Q でも、建物はボロボロじゃないの？

現在の小学校は外からみると真っ黒になっています。校舎が建てられた当時は「砂利モルタル」というセメントに砂や土を混ぜて壁を塗っており、この建物も壁を塗った直後は、左官屋さんが丁寧に仕上げ、きれいに化粧されて

いました。

それがだんだん土に戻って風化してきたため、真っ黒に見えるのです。いわば、建物の化粧が長い間に古くなって取れていったということです。

雨漏りについても、後に付設したトイレや防水工事が不十分であったことが原因で、建物自体が劣化しているわけではありません。

Q 今後、どうしていくの？

議会において保存の請願が採択されたことを受けて、耐震や雨漏り対策について調査し、市民のかたからのご意見を伺いながら、方針を決めていきたいと考えています。



現在の鳥羽小学校